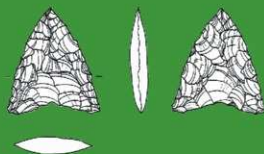


# 赤塚遺跡

(第5地点)

河和田住宅建替え事業（第5期）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



2011

水戸市教育委員会

# 赤塚遺跡

(第5地点)

河和田住宅建替え事業（第5期）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2011

水戸市教育委員会



## ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復することが出来ないため、私たちが大切に保存しながら後世へと伝えていかなければならない貴重な財産です。

近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の原状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に務めているところです。

本書は、河和田住宅建替え事業（第5期）に先立ち、実施した赤塚遺跡（第5地点）の発掘調査報告書です。

赤塚遺跡はこれまで、国道50号バイパス敷設工事に伴う第1地点の発掘調査や宅地造成工事等に伴う第4地点の試掘調査により、先土器時代から近世に至る遺構・遺物が多数確認されており、第5地点においても遺構・遺物の存在は予測されていたところです。

試掘調査の結果、奈良・平安時代以降の溝跡や土坑などが確認されたため、担当課と保存について協議を重ねましたが、やむを得ず記録保存を図るとの結論に達しました。

発掘調査では、奈良・平安時代の溝跡のほか、近世以降の井戸跡などが確認されるとともに、土師器や須恵器、縄文土器・石鏃が出土し、赤塚遺跡の南限を確認することができるとともに、低地への移行空間における土地利用の在り方もわかって参りました。

ここに刊行する本書が、かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚を図るとともに、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

終わりに、本調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました水戸市都市計画部住宅課、同建設部建築課、周辺住民の皆様、並びに種々の御指導、御助言をいただきました茨城県教育庁文化課の皆様方に心から感謝を申し上げます。

平成23年1月

水戸市教育委員会  
教育長 鯨 岡 武



## 例 言

- 1 本書は、河和田住宅建替え事業（第5期）に伴う赤塚遺跡（第5地点）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社地域文化財研究所の調査支援を受け、水戸市教育委員会が主体となって行った。
- 3 調査概要及び調査組織は下記の通りである。

所在地 水戸市河和田3丁目2536-1番地外

調査面積 1,380㎡

調査期間 平成22年7月26日 から 平成22年8月30日

調査主体 水戸市教育委員会（教育長 鯨岡 武）

調査担当者 米川暢敬（水戸市教育委員会事務局文化財主事）

調査支援 高野浩之（株式会社地域文化財研究所）

調査参加者 海老原龍生・小野 豊・斉藤与志郎・高野正行・中島貞雄・中島トミ子・中村 薫  
平林敬子・渡辺由美子・野村浩史・川村理華・大関美穂・増田香理

事務局 内田秀泰 教育次長

中里誠志郎 文化課長

五上義隆 文化課長補佐

萩谷慎一 文化課文化財係長

渥美賢吾 文化課文化財係文化財主事

海老澤里江 文化課文化財係主事

宮崎賢司 文化課埋蔵文化財センター所長

川口武彦 文化課埋蔵文化財センター主幹

米川暢敬 文化課埋蔵文化財センター文化財主事

山戸祐子 文化課埋蔵文化財センター嘱託員

色川順子 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

大津郁子 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員（9月30日まで）

田中恭子 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

金子千秋 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

三浦健太 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員（10月1日から）

- 4 本書は、米川・高野が分担して執筆し、米川の助言・指導に基づいて高野が編集した。
- 5 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、報告書刊行後に水戸市教育委員会において保管する。
- 6 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関によりご教示・ご協力を賜った。記して深く謝意を表したい（敬称略・順不同）。

株式会社杉森工業 茨城県教育庁文化課 文化庁文化財部記念物課

## 凡 例

- 1 測量は、国家標準直角座標Ⅸ系に基づく座標値を示し、方位は真北を基準としている。
- 2 各調査区の遺構全体図は1/350、各遺構の平面図・断面図は1/40、1/60、基本堆積土層柱状図は1/30である。
- 3 各遺構の略号は、奈良文化財研究所の用例にならい、以下の通りとした。  
SK…土坑 Pit…ピット SD…溝 SE…井戸 SX…風倒木痕  
※攪乱・木根等は「K」を用いた。
- 4 遺構断面図及び基本堆積土層図の標高は、図中に掲載してある。
- 5 遺物実測図の縮尺は、1/1、1/3で記載してある。
- 6 遺構・遺物の色調標記は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用している。また、土層説明中の「B」は、ブロック状のものを意味し、小・中・大はブロックの大きさを示している。少・中・多は含有物の面積割合を表し、「多」に付した（ ）内の割合は、5%以上のものについて記した。ブロック状の大きさ及び面積割合は同書土色帖に準じた。
- 7 遺物観察表の標記は（ ）内数値は現存値を、[ ]内数値が推定値を表している。計測単位は、規模を「cm」、重量を「g」で示した。
- 8 出土遺物一覧表の中で、残存値が1/2以上のものは個体とし、それ以下は破片としてカウントしている。また、接合したものは全体で1点とし、逆に同一個体が明らかではあっても接合しないものはそれぞれを1点としている。
- 9 引用・参考文献は巻末に一括して掲載してある。
- 10 表紙に使用した図は、D5グリッド内出土の石畿（第22図-6）である。
- 11 挿入図中使用したスクリーントーン及び線種・ドットは以下凡例図の通りである。

## 凡 例 図

攪乱  ローム隆起層範囲  出土土器 ●（使用） ●（未使用）

# 目 次

ごあいさつ

例言

凡例・凡例図

目次

## 第 I 章 調査に至る経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 発掘調査の方法と経過	4
(1) 調査の方法	4
(2) 調査の経過	4

## 第 II 章 遺跡の位置と環境

第 1 節 地理的環境	5
第 2 節 歴史的環境	5
(1) 先土器時代～縄文時代草創期	
(2) 縄文時代中期～晩期	
(3) 弥生時代～奈良・平安時代	
(4) 中世～近世	
第 3 節 赤塚遺跡における既往の調査	9

## 第 III 章 調査の成果

第 1 節 遺跡・調査区の概要	12
第 2 節 基本堆積土層	13
第 3 節 溝	15
第 4 節 井戸	16
第 5 節 土坑	16
第 6 節 ビット	19
第 7 節 風倒木痕状の落ち込み	21
第 8 節 遺構外出土遺物	26

## 第 IV 章 総括

第 1 節 第 5 地点における土地利用の変遷	28
-------------------------	----

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

水戸市埋蔵文化財報告書一覧



## 表 目 次

第1表	赤塚遺跡と周辺の遺跡一覧	7	第3表	出土遺物観察表	27
第2表	赤塚遺跡における既往の調査一覧	11	第4表	出土遺物一覧表	27

## 図 版 目 次

第1図	赤塚遺跡の範囲と第5地点の位置	1	第11図	SE-01実測図	16
第2図	試掘調査のトレンチ配置と 遺構検出状況	2	第12図	土坑実測図(1)	17
第3図	第5地点本調査区の位置	3	第13図	土坑実測図(2)	18
第4図	水戸市城の地形と赤塚遺跡の位置	5	第14図	ピット全体図	19
第5図	赤塚遺跡の位置と周辺の遺跡分布	6	第15図	ピット実測図	20
第6図	赤塚遺跡の範囲と既往の 調査地点の位置	10	第16図	風倒木痕状の落ち込み実測図(1)	21
第7図	調査区全体図	12	第17図	風倒木痕状の落ち込み実測図(2)	22
第8図	基本土層柱状図	13	第18図	風倒木痕状の落ち込み実測図(3)	23
第9図	SD-01実測図	14	第19図	風倒木痕状の落ち込み実測図(4)	24
第10図	SD-01出土遺物実測図	15	第20図	風倒木痕状の落ち込み実測図(5)	25
			第21図	風倒木痕状の落ち込み実測図(6)	26
			第22図	遺構外出土遺物実測図	27

## 写真図版目次

写真図版1	調査区全景 / 調査区全景西側
写真図版2	調査区全景 / 調査区完掘南東側 / 調査区完掘北西側 / 調査区完掘南側 / SD-01全景 / SD-01北側全景 / SD-01遺物出土状況 / SD-01土層断面
写真図版3	SE-01全景 / SE-01土層断面 / SK-01全景 / SK-10全景 / SK-13全景 / SK-09全景 / SK-14全景 / SK-14土層断面
写真図版4	SX-02全景 / SX-04全景 / SX-06全景 / SX-06土層断面 / SX-07全景 / SX-07土層断面 / SX-08・09全景 / SD-01・SX-08土層断面
写真図版5	SX-10全景 / SX-12全景 / SX-15全景 / SX-17全景 / SX-18全景 / SX-17・18土層断面 / SX-19全景 / SX-19土層断面
写真図版6	出土遺物

## 第I章 調査に至る経緯と経過

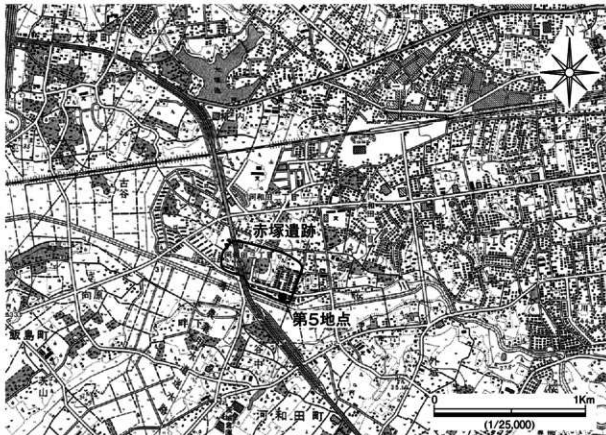
### 第1節 調査に至る経緯

平成22年3月9日付で水戸市長（都市計画部住宅課長）から、水戸市教育委員会教育長（以下、「市教委教育長」という）あて、共同住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」が水戸市教育委員会（以下、「市教委」という）へ提出された。

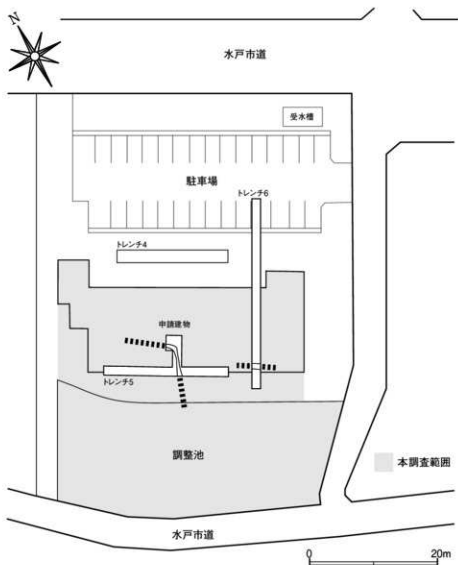
開発予定地である水戸市河和田3丁目2536-1番地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である赤塚遺跡の範囲に該当していた（第1図）。この近隣では、昭和57年の国道50号バイパス敷設に伴う第1地点の発掘調査で先土器時代～中世に至る遺構・遺物が多数確認されており、平成21年1月18日に実施した解体工事に伴う確認調査および、平成21年6月15日～18日に実施した試掘調査の際に溝や土坑とみられる遺構が確認されていたことから（第2図）、当該地点には埋蔵文化財が存在する可能性が高いと考えられた。

平成22年3月10日付教文第142号にて文化財保護法第94条第1項に基づく発掘の通知を茨城県教育委員会教育長（以下、「県教委教育長」という）あて、提出する必要があること、遺跡の発掘調査を必要とする場合には、原因者に協力をお願いする旨、回答した。

これを受けて、事業課である都市計画部住宅課から県教委教育長あて、埋蔵文化財発掘の通知が提



第1図 赤塚遺跡の範囲と第5地点の位置（国土地理院発行 1：25,000に加筆）

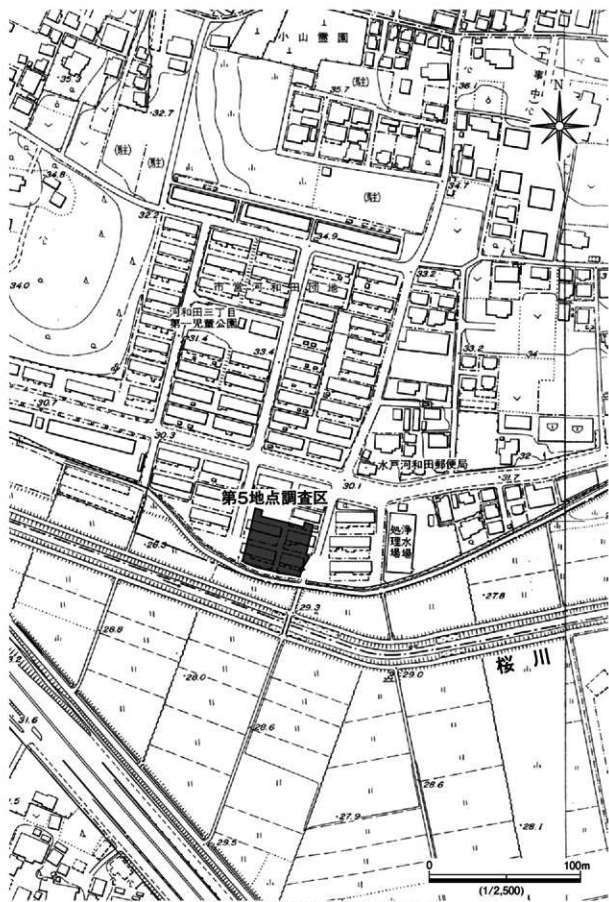


第2図 試掘調査のトレンチ配置と遺構検出状況 (1:600)

出された。試掘調査の成果と土木工事の内容を照らし合わせたところ、確認・試掘調査で検出されていた遺構は、工事により損壊を受けることになるため、工事着手前に市教委が発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずる必要があるとの意見書を付して達達した(教文第36号)。

この通知に対し、県教委教育長から平成22年4月6日付文第24号にて、工事によって遺構等が損壊されるなど埋蔵文化財の保存に影響があるので、工事着手前に発掘調査を実施すること、調査の結果、重要な遺構等が発見された場合には、その保存等について別途協議を要する旨、勧告があった。これを受けて市教委は敷地面積約3,200㎡のうち、工事により埋蔵文化財に影響の及ぶ1,380㎡を調査範囲とすることを決定し(第2図・第3図)、平成22年7月26日から記録保存を目的とした本発掘調査を実施することとなった。発掘調査は市教委文化課の米川暢敬文化財主事を調査担当者とし、株式会社地域文化財研究所の支援を受けて、同社の高野浩之氏を現場代理人として平成22年8月30日まで実施することとなった。

(米川)



第3図 第5地点本調査区の位置 (1:2,500)

## 第2節 発掘調査の方法と経過

### (1) 調査の方法

調査の対象範囲は、住宅の建設が予定された建物部分の1,380㎡である。表土除去は重機（バックホー）を使用し、遺構確認面まで慎重に掘り下げた。表土除去後の遺構掘削については、全て人力で行った。

各遺構の名称は、確認時に遺構の性格が明確なものもあったが、把握できない落ち込みも存在したため、掘り下げを開始した順から全て通し番号を付して図面・写真等の記録に用いた。通し番号は、後日の整理段階で、遺構の性格別に名称を振り替えた。

基準点は、世界測地系・座標系第Ⅸ系の基準ポイントから調査区内に引き込み、10m単位で方眼グリッドを設置した。グリッドは、X軸=41370、Y軸=51490を起点として、西から東へかけてアルファベットA・B・C・・・、北から南へかけて算用数字1・2・3・・・の記号を付し、双方の記号を併せた名称を用いた。それぞれのグリッドでは、北西隅交点を実測の基準としている。水準点は、四等三角点（河和田）から調査区内へ引き込んだ。

実測は、平板測量及び簡易遣り方を用い、断面実測とともに1/20縮尺を基本として用いているが、溝は1/40縮尺、遺構確認状況図や遺構配置図は1/200縮尺を適宜用いている。

写真撮影は、35mm判白黒ネガフィルム及びカラーリバーサルフィルムを使用し、調査の過程で随時行っており、補助的にデジタルカメラを併用している。

基本堆積土層は掘り込みの深い遺構（SE-01）を利用し、側壁を精査して観察を行った。

### (2) 調査の経過

7月26日より調査を開始した。初日は、調査に先立って、発掘機材搬入やトイレ等施設の設置作業を行うとともに、基準点の確認作業を行った。27日から30日にかけて表土除去を行い、8月に入って2日より作業員を投入して、遺構確認作業を開始した。並行して調査区内のグリッド設定及び水準点の設置作業を行った。4日からは遺構の掘り下げを開始した。掘り下げは、調査区の西側からとりかかり、各遺構とも土層観察のために半載作業を中心に作業を進めた。12日までには溝SD-01を含め、西側の全ての遺構を完掘させた。

お盆を挟んで16日より調査を再開し、調査区東側の掘り下げを行った。20日午後までには全ての遺構の掘り下げを完了した。23日には調査区全体を精査し、全景写真撮影を行った。24日以降は発掘機材搬出等の撤収作業を行った後、27日から30日にかけて埋め戻し工事と雨水止め小堤の設置作業を行った。現地発掘調査の業務を終了した。

整理調査は、調査終了後すみやかに遺物の水洗いに入った。水洗い、注記等の基礎的な作業を行った後、遺構図の修正を行った。遺物については一覧表を作成し、実測遺物については出土量が極端に少ないことから全量を対象としたが、実測不可能な細片は除外した。遺物写真撮影後、遺構トレース作業と併せて遺物トレースを行った。これらの成果をもとに割付・編集作業を経て入稿となり、校正を経て本書の刊行となった。

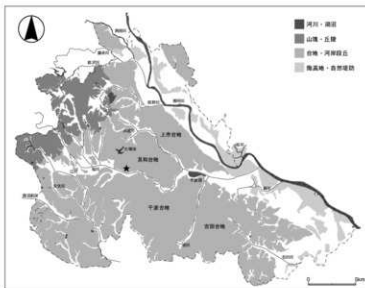
(高野)

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

水戸市域の地形は、第4図のとおり、大きく3つに大別される。1つ目は、北部から東部に流れる那珂川とその支流の桜川・涸沼川により形成された沖積低地と微高地・自然堤防である。2つ目は、東茨城台地の北東部をなす水戸台地及び那珂川によって形成された河岸段丘（通称上市台地、見和台地、千波台地、吉田台地等）である。3つ目は、市域北西部の八溝山地に属する鶏足山塊の東南に連なる山塊・丘陵地である。

水戸台地には沢渡川、桜川、逆川が開析する支谷が深く入り込み、上市台地、見和台地、千波台地、吉田台地と呼ばれる台地と河岸段丘が形成されている（第4図）。赤塚遺跡は桜川左岸の標高約30m～34mの台地縁辺部に展開する。赤塚遺跡が展開する見和台地は、更新世後期の海の浸入による海成面からなり、海退後に桜川が河岸段丘を形成した。台地は関東ロームに覆われ、第三紀の泥岩・砂岩を基盤層とし、海成面は砂層・泥層から構成されている。



第4図 水戸市域の地形と赤塚遺跡の位置（★印が赤塚遺跡）

### 第2節 歴史的環境

赤塚遺跡の周辺には先土器時代～近世に至る多数の集落跡や古墳群、城館跡が形成されている。以下、時代ごとに主要遺跡の動向について概観する。

#### （1）先土器時代～縄文時代草創期

赤塚遺跡の周辺における当該期の遺跡としては、清水遺跡、松原遺跡、一本松遺跡が挙げられる。松原遺跡は、昭和55年に常磐自動車道建設に伴う発掘調査が行われており、遺構外出土遺物に縄文時代草創期の長者久保・神子柴石器群に帰属するとみられる安山岩製の石斧と剥片、頁岩製の石錐が出土している（石井 1981）。清水遺跡からは、硬質頁岩製の削器と石刃が（橋本 1995）、一本松遺跡からは槍先形尖頭器が採集されており（鴨志田 1999）、いずれも長者久保・神子柴石器群に帰属するとみられる。向原遺跡からも尖頭器が出土しているようだが、実測図等がないため、時期は不明である。



第5図 赤塚遺跡の位置と周辺の遺跡分布 (『茨城県遺跡地図』1/25,000により加筆・修正)

第1表 赤塚遺跡と周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	遺物	備考
014	高天原遺跡	集落跡	縄文土器(早・中・晩)、弥生土器(後)、土師器(古)	S59～60年度発掘調査
015	環遺跡	集落跡	縄文土器(中・後)・土製円盤・石鏃・磨石・敲石・凹石・石皿・砥石・剥片(縄文)、弥生(後)、土師器(古)、青白磁・陶器・カワラケ・内耳土鍋(中世)、砥石・硯(近)	H8・H17～H22年度発掘調査
016	若林遺跡	集落跡	縄文土器(中期)・石鏃・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石・凹石・石皿・白石・剥片(縄文)、須恵器(奈・平)	H19・H20・H21年度発掘調査
017	一本松遺跡	集落跡	尖頭器(縄草)、縄文土器(早・中)、土師器・須恵器(古)	
042	赤塚遺跡	集落跡	削器・台形棒石器・ナイフ形石器・尖頭器・掻器・剥片(先)、縄文土器(前～晩)、弥生土器(中・後)、土師器(古・奈・平)、藏骨器(平)、土玉(古)、磁器(近)	S57、H18、H19、H21、H22年度発掘調査
064	堀遺跡	集落跡	土師器(古・奈・平)、須恵器(古・奈・平)	H5・6・17～22年度発掘調査
081	堀町西古墳	古墳	縄文土器(中)、敲石・磨製石斧・石鏃・土製円盤・土器片鏃(縄文)、土師器・刀子・鉄斧(古)、土師器・須恵器・土玉・刀子(奈・平)、銭貨(近)	H20～21年度発掘調査 P2、方1
082	下荒匂古墳群	古墳群		P2(20?)
083	街道端古墳群	古墳群		P0(3)消滅
084	高天原古墳群	古墳群		方0(2)、方0(7)消滅
085	赤塚古墳群	古墳群	土師器・円筒埴輪・形象埴輪・直刀・長基鏃	S46年度発掘調査、前方後円3・P12、方19(うち方形周溝墓18)
102	河和田城跡	城館跡		H11・17～21年度発掘調査
119	飯島町遺跡	集落跡	弥生土器(後)、土師器(古)	
120	仙光内遺跡	集落跡	弥生土器(後)、土師器(古前～後、奈・平)	H17・18・20年度発掘調査
122	池上遺跡	集落跡	土師器・須恵器(奈・平)	H19・20年度発掘調査
123	清水遺跡	集落跡	石刃(縄草)、縄文土器(前)、弥生土器(後)、土師器(古)	H21年度発掘調査
124	釜久保遺跡	集落跡	弥生土器(後)、土師器(古前・奈・平)	H17・18・20・21年度発掘調査
132	山田遺跡	集落跡	縄文土器(中)、弥生土器(後)、須恵器	
134	金剛寺遺跡	集落跡	縄文土器(中)、土師器・須恵器(奈・平)、内耳土器(中)	H16・17・18・22年度発掘調査
135	寺山遺跡	集落跡	縄文土器(中)、土師器・須恵器(古)	
136	釜山古墳	古墳	土師器(古)	消滅
137	向原遺跡	集落跡	尖頭器(先)、縄文土器(前)、弥生土器(中・後)、土師器(古)	1973年度発掘調査
138	北原古墳群	古墳群		P1(2)
139	北原遺跡	集落跡	縄文土器、土師器(古)、須恵器	H21年度発掘調査
145	巡見遺跡	集落跡	縄文土器(前・中)、土師器(古)	消滅
148	山田八古墳群	古墳群		P2(4)
149	全隈権現台遺跡	集落跡	縄文土器(前・中)	消滅
150	大久保遺跡	集落跡	土師器(古)	
153	開江宿遺跡	集落跡	土師器・須恵器(奈・平)	
155	小鍋遺跡	集落跡	縄文土器(中・後)、土師器(古)	
163	大久保古墳群	古墳群		P0(3)
164	毛勝谷原遺跡	集落跡	弥生土器(後)、土師器(古前)	
166	毛勝谷原古墳群	古墳群		P1(3)
220	松原遺跡	集落跡	打製石斧・石刃・石鏃(縄草)、縄文土器(早)、弥生土器(後)、土師器(古前・後・奈・平)、石製品・土製品、石製切子玉(古墳)	S54年度発掘調査
221	稲荷塚古墳群	古墳群	円筒埴輪・勾玉	P3、H20～22年度発掘調査
222	大塚新地遺跡	集落跡	弥生土器(後)、土師器(古前・奈・平)、勾玉、石製品、土製品、鉄製品、木製品	S54～55・H17・19～21年度発掘調査
223	飯島町古墳群	古墳群		P13
273	淡島神社経塚	塚	内耳土器・陶磁器・磁器・銭貨(近世)	
274	経塚遺跡	集落跡	カワラケ・陶器・内耳土器(中世)	H17年度発掘調査
280	街道端愛宕神社塚	塚	土師器	



## (2) 縄文時代中期～晩期

赤塚遺跡周辺における縄文時代の濃密な遺跡分布は桜川の流水がその生態環境に大きく関与していたものと考えられ、桜川左岸の台地縁辺部には縄文時代中期の集落跡が面的に広がっている。その代表的な遺跡として、環遺跡・高天原遺跡・若林遺跡が挙げられる。環遺跡はこれまで14地点において発掘調査が行われているが、平成8年の共同住宅建築に伴い実施された第1地点の調査では、中期の竪穴建物跡4棟、土坑15基が検出されている（井上・鈴木 1996）。土器は阿玉台Ⅲ～Ⅳ式を中心に加曾利E式、大木式、網取式などが出土している。同様の傾向は、平成18年に共同住宅建築に伴い実施された第4地点の発掘調査でもみられ、竪穴建物は確認されていないものの、中期～後期の土坑群が密集して確認されている（三輪・新垣ほか 2007）。他方、平成18年に共同住宅建築に伴い実施された第3地点の調査では、土坑の密集度は希薄で重複する状況は確認されていない。また、陥し穴状土坑も3基確認された点は他の地点とは異なる様相である。土器の時期も阿玉台1b～Ⅱ式期を中心に阿玉台Ⅲ・Ⅳ式、大木7b・8a式が出土している（小川・関口ほか 2007）。

環遺跡の東方に隣接する高天原遺跡は、昭和59～60年に住宅団地造成に伴い実施された発掘調査で、中期の阿玉台Ⅲ～加曾利EⅡ式期の土器が出土する隅丸長方形の竪穴建物跡1棟、大木8b式期の袋状土坑4基が検出されており（井上 1985）、環遺跡とはほぼ同時期に営まれていた集落のひとつとして理解される。

高天原遺跡の東方に位置する若林遺跡は、平成21年に宅地造成工事に伴う発掘調査が実施され、竪穴建物跡1棟、土坑58基、屋外炉2基、ピット1基が検出されている（関口・佐々木・林 2009）。時間的には阿玉台Ⅱ～Ⅳ式、加曾利EⅠ～Ⅲ式を中心に在地の諏訪式や勝坂式、中韓式、大木7b～8a式、曾利式など東北地方と南関東の土器も出土しており、環遺跡とはほぼ同時期に営まれていた集落のひとつとして理解される。

## (3) 弥生時代～奈良・平安時代

赤塚遺跡の周辺に展開する弥生時代の遺跡は、高天原遺跡・仙光内遺跡・飯島町遺跡・清水遺跡・大塚新地遺跡・向原遺跡などが挙げられる。これらのうち、本発掘調査が行われているのは、大塚新地遺跡（石井 1981）と向原遺跡（伊東 1974b）に限られる。大塚新地遺跡では、弥生時代後期の竪穴建物跡10棟、土坑50基、中期の壺棺墓1基が確認されており、中期～後期の拠点集落とみられる。向原遺跡では中期の竪穴建物跡3棟と後期の竪穴建物跡8棟が確認されている。また、高天原遺跡では遺構外より後期の土器・石器が出土しており（井上 1985）、当該期の土地利用の存在が窺える。

古墳時代の主な遺跡は、環遺跡（第1地点）・高天原遺跡・大塚新地遺跡・向原遺跡・赤塚古墳群・仙光内遺跡・飯島町古墳群等が挙げられ、大塚新地遺跡・向原遺跡・赤塚古墳群で本発掘調査が行われている。大塚新地遺跡では古墳時代前期の竪穴建物跡15棟、中期の竪穴建物跡2棟、後期の竪穴建物跡27棟が検出されるとともに、前期の方形周溝墓1基も検出されており、前期については集落と墓域がセットで確認されている。

赤塚古墳群は昭和45～46年の赤塚西団地建設に伴い発掘調査が行われており（伊東1974a・川口2009）、前方後円墳3基、円墳12基、方墳19基（うち方形周溝墓18基）から構成される古墳群であるこ

とが判明している。古墳群は谷津を隔てて東西両群に分けられ、東側の台地のものがE支群、西側の台地のものがW支群と呼ばれている。現存するのは前方後円墳2基と円墳2基であるが、前方後円墳は2基とも30mを超え、いずれも埴輪を伴う。方形周溝墓はW支群に密集しており、赤塚遺跡で前期～中期の集落が確認されていることから、赤塚遺跡は前期の造墓集団の集落であった可能性が高い。

奈良・平安時代の遺跡は決して多くはないが、赤塚遺跡に隣接する環遺跡第1地点の発掘調査では7世紀末～8世紀前葉の竪穴建物跡1棟が確認されていることから、未確認の集落が眠っている可能性がある。

#### (4) 中世～近世

赤塚遺跡周辺の中世の代表遺跡として挙げられるのが桜川の対岸に位置する河和田城跡である。河和田城跡は東西約510m、南北約600mの範囲にわたって土塁や空堀、水堀などの遺構が良好な状態で現存しており、市を代表する中世城館のひとつでもある。

また、河和田城跡に南接する経塚遺跡でも、平成17年に実施した試掘調査の際に16世紀代とみられる堀跡や地下式坑などが集中して確認されており、河和田城跡と密接に関わる遺跡として評価される。

赤塚遺跡の東側に接する環遺跡でも第3地点の調査の際に中世の掘立柱建物跡や堀・地下式坑・土坑・井戸・ピットが検出されており（小川・関口ほか 2007）、同じ台地の東方に位置する若林遺跡においても第1地点の調査で地下式坑が1基確認されている（関口・佐々木・林 2009）。このように桜川を挟んで南北に中世村落に係る土地利用が広く展開している様子が窺える。

近世の遺構としては、若林遺跡と環遺跡に挟まれた高高原遺跡で、中世末期のカワラケを出土する塚2基が確認されている（井上 1985）。同報文では「かつて9基の古墳（円墳）が存在していた」と報告されていることから、桜川北岸の台地縁辺部には中世～近世にかかる時期の塚群が築かれていた可能性が高い。さらに、桜川右岸の台地上にも淡島神社経塚や街道端愛宕神社塚などの塚・経塚も現存しており、近世村落における民間信仰の一端を示す遺構として評価されよう。（米川）

### 第3節 赤塚遺跡における既往の調査

赤塚遺跡ではこれまで6地点において発掘調査が行われている（第6図・第2表）。以下、その成果を地点毎に概観しておこう。

第1地点は、昭和57年に実施された国道50号バイパス敷設に伴う本発掘調査である（外山 1983）。本調査は、遺跡の西部で行われたものであるが、先土器時代から平安時代の遺構・遺物が確認されている。先土器時代は、55点の石器からなる石器集中地点1基と炭化物集中地点1基が検出されている。石器集中地点から出土した石器には台形様石器やナイフ形石器が含まれており、出土層位は第二黒色帯上部付近とみられる。石斧が組成から欠落していることから、編年的には橋本編年（橋本 1995）のIIa期中段階に位置付けられる。

縄文時代は、竪穴建物跡の可能性のある「1号円形遺構」が検出されており、砂岩製の磨製石斧が出土している。また、遺構外より前期浮島式、中期五領ヶ台式・加曾利E式、後期、晩期終末の浮線

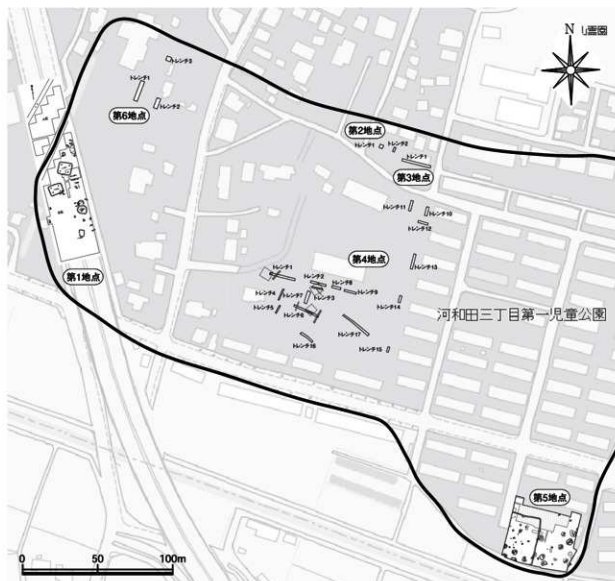
網状文土器などが出土している。

古墳時代は前期のバレス壺形土器が出土した第2号堅穴建物跡、中期の土師器や須恵器が出土した第3号堅穴建物跡、前期末～中期初頭頃の土師器が出土した1・5号土坑が確認されている。

平安時代は、土師器甕や須恵器甕・無台坏・有台坏・盤・蓋を蔵骨器に用いた10基の火葬墓が検出されており、古代には墓域としての土地利用が展開したことを物語る資料である。

第2地点と第3地点は遺跡の北端に近い位置で、平成18年に実施された集合住宅及び個人住宅建設に伴う試掘調査であるが、遺構・遺物はともに確認されていない（川口・色川ほか 2009）。

第4地点は、遺跡の中央部で平成19年に実施された宅地造成工事に伴う試掘調査である。本地点では先土器時代の所産とみられる硬質頁岩製の剥片が検出されるとともに、縄文時代中期加曽利E4式期の土坑群、古墳時代中期前半の堅穴建物跡3棟、近世の溝跡1条、時期不明の溝跡2条が確認されている（川口・色川ほか 2010）。第1地点で確認されていた先土器時代・古墳時代の土地利用が確認されるとともに、縄文時代の土坑群が検出された成果は大きい。



第6図 赤塚遺跡の範囲と既往の調査地点の位置

第2表 赤塚遺跡における既往の調査一覧

地点名	調査 回数	所在地	調査 年度	調査開始日	調査終了日	調査 種別	調査原因	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査担当	遺構	遺物
1	—	河和田3丁目2320、 2573、2887-1、2887-2外	S57	昭和57年8月19日	昭和57年11月30日	本	国道50号バイパス敷設	990.05	外山泰久	○	○
2	—	河和田3丁目2339-5、 6、8、10、2337-31	H18	平成18年7月19日	平成18年7月19日	試	集合住宅	28.20	関口慶久	—	—
3	—	河和田3丁目2339-1	H18	平成18年8月24日	平成18年8月24日	試	個人住宅建設	6.50	関口慶久	—	—
4	—	河和田3丁目2542-1外	H19	平成19年12月18～19日	平成20年1月15～16日	試	宅地造成	177.00	川口武彦・ 新垣清貴	○	○
5	1	河和田3丁目2536 (古宮 河和田住宅前～砂塚)	H20	平成21年1月28日	平成21年1月28日	確	市営住宅解体	—	関口慶久	○	—
5	2	河和田3丁目2536 (古宮 河和田住宅前～砂塚)	H21	平成21年6月16日	平成21年6月18日	試	市営住宅建替え	274.30	米川暢敬	○	○
6	—	河和田3丁目2324-1、 2、3の1區、米川	H22	平成22年5月27日	平成22年5月27日	試	宅地造成工事	34.00	川口武彦・ 田中恵子	—	○

第6地点は、第1地点の東側において平成22年に実施された宅地造成工事に伴う試掘調査である。本地点では各トレンチより近世の遺物が確認され、近世以前の遺構・遺物は確認されなかったが、トレンチ1のゴミ穴よりカキ殻が層状に多数検出されたことが注目される。本地点は、江戸時代後期寛政年間に創業した司命堂薬局に隣接している場所で、カキ殻は「牡蠣（ボレイ）」とも呼ばれ、生薬の材料として焼成し粉砕した粉を用いることから、その原料であった可能性が考えられる。土地利用と関連付ければ、カキ殻は食用ではなく製薬との関わりで理解すべき自然遺物であろう。ゴミ穴にはカキ殻の他にも炭化材が含まれており、建造物が火災を被った可能性があることも判明した。

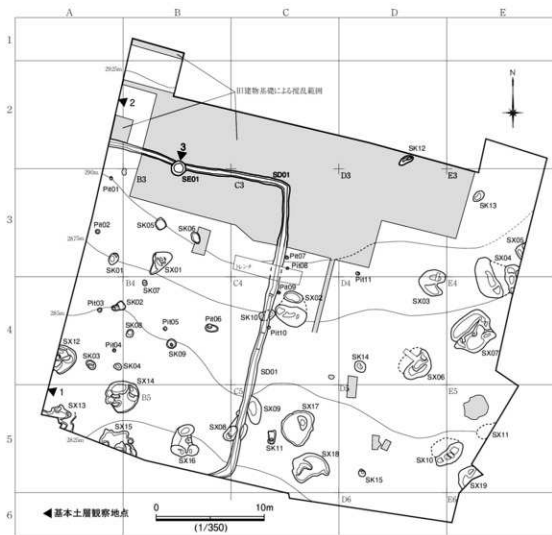
以上が赤塚遺跡における既往の調査成果の概要であるが、まとめると先土器時代・縄文時代・古墳時代には集落としての土地利用が展開し、平安時代には墓域としての土地利用が展開する。そして近世に再び集落としての土地利用が再開する。  
(米川)

## 第三章 調査の成果

### 第1節 遺跡・調査区の概要

桜川に接した台地縁辺部には、環遺跡、高天原遺跡や赤塚古墳群などの遺跡群が連なっており、その中のひとつに赤塚遺跡も含まれている。遺跡に括られた範囲の地形は、桜川に沿って東西に長く、範囲北側の台地部から南側の桜川流域へ向かって緩やかな傾斜を持っている。今回、調査の対象となった第5地点は、桜川に最も近い南東端に位置し、南側へ若干突出した部分にあたる。調査地点の現況は市営住宅が建設されていた場所であるため、現況は平坦な地形となっているが、表土除去の結果、平坦面は盛土によって造成されたもので、以前は調査区全体が緩い傾斜を持っていたことが判明した。調査区A4～E4グリッド線を境にした北側では傾斜が緩い状況で、ほぼ平坦な地形がみられるものの、南側では傾斜度が増して、桜川に近い地点ほど湿地に近い状況であった（第7図）。

調査区は、新しく建設が予定されている建物部分と調整池が設置される予定の部分を併せた1,380㎡



第7図 調査区全体図

が対象となった。現地表面から遺構確認面までの深さは、調査区の北側で30～50cm、調査区の南側で1.0～1.5m程となっており、北側部分では既存建物の基礎や解体時の痕跡によって遺構確認面が壊され、南側の調査区際では雨水管が敷設されていた。

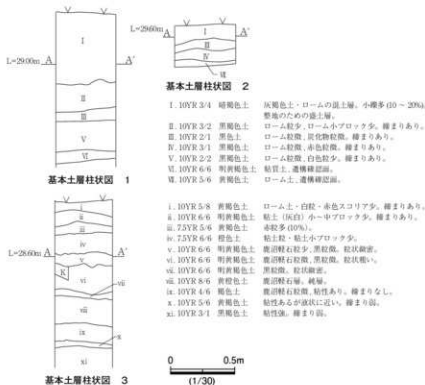
検出された遺構は、奈良・平安時代の遺物を伴う溝1条、時期不明の井戸状遺構1基、土坑15基、ピット11基で、それ以外に風倒木痕状の落ち込みが19基確認された。それぞれの遺構の配置に規則性は無いが、井戸や土坑、ピットは調査区の中でも標高の高い台地側で主に検出され、風倒木痕状の落ち込みは標高の低い調査区の南側から東側で主に認められている（第7図）。（高野）

## 第2節 基本堆積土層

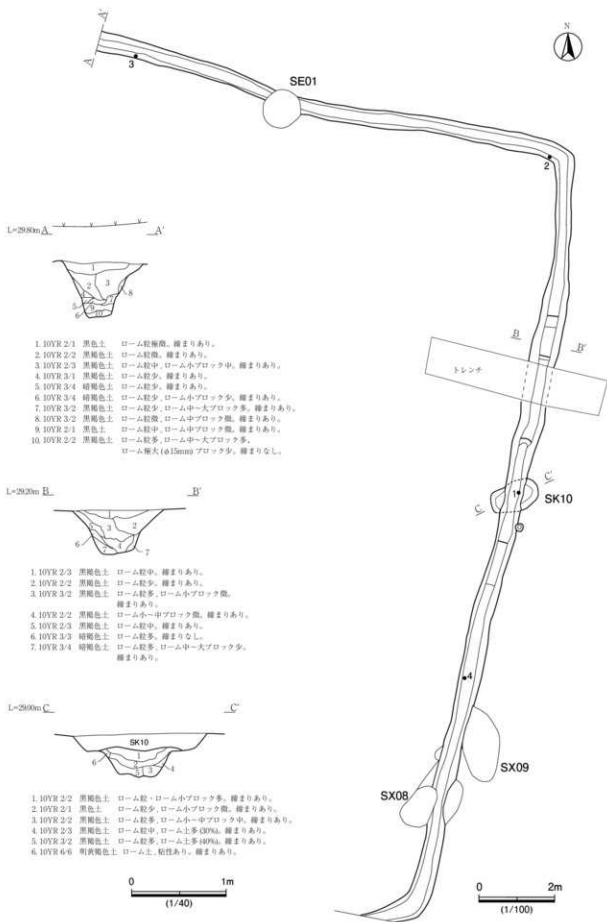
遺構確認面までの堆積層では、調査区の北側と南側で差異が認められる（第8図-基本土層柱状図1・2）。これは北側の台地寄りから南側の低地へ向かう傾斜地形に起因するものと考えられる。確認面を切り込んでいる部分もあった。調査区の西側壁より観察すると、I層は整地などに伴う盛土層で、全体を通して起伏が顕著となっている。II～IV層は耕作による堆積層と考えられる。III・IV層は全体を通して認められるが、II層は南側でのみ堆積する層で、東側壁側では水田の床土と考えられる鉄分が混在する状況が捉えられた。V層も南側でのみ認められ、やや粘性を持つ層となっている。VI・VII層は遺構確認面となる層で、VI層は南側で確認される粘質土層、VII層は北側で確認されるローム土層で、一部に今市・七本桜軽石が露出した部分が調査区内の所々で認められている。

確認面以下の土層は、調査区北側部分の台地寄りにある深い遺構の断面を利用して観察を行った（第

8図-基本土層柱状図3）。観察を行った地点はB-2・3グリッドにまたがるSE-01の断面である。i層は上面で今市・七本桜とみられる軽石層が若干堆積しているハードローム層で、遺構確認面のVIII層に相当するものである。ii～vii層もハードローム層で赤色スコリアや粘土ブロックなどがわずかに含まれており、含有物や色調の差異などから分離される。v層から黄色の鹿沼軽石が認められるようになり、vii層では軽石が密に堆積した鹿沼軽石の純層となるが、細かい粒状となっている。ix層



第8図 基本土層柱状図



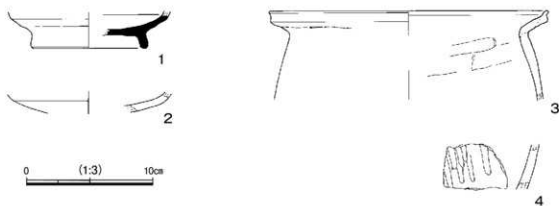
第9図 SD-01実測図

以下は粘性を有する層となり、下層へ移行するに従い粘性を増している。xi層は黒褐色で非常に粘性が強く、かなりの厚さで堆積しており、低地部分の層との関連がうかがえる。(高野)

### 第3節 溝

今回の調査で検出されている溝は、SD-01の1条である(第9図)。SD-01は、調査区の北西側から中央部にかけて確認されている(第7図)。溝の北西側では、ほぼ東西に走行しており、主軸方向はN-78°-Wを指して直線的に延びている。規模は、ほとんどが既存の建物によって攪乱を受けているため全容は把握されないが、攪乱を免れているB3グリッド地点から判断すると、幅58~64cm程度で、深さは21~29cmとなる。底面の標高はさほど差を持たないことから、深度はほぼ一定の水準を保って掘り込まれていたものと考えられる。中央部の溝は、北西側の溝がC3グリッド地点で方向を南北に方向を変えている。主軸方向はN-13°-Eを指し、直線的に延びている。規模は、方向を変えるC3グリッド地点では既存の建物による攪乱を受けているもの、それ以外は攪乱を免れていた。規模は、幅が70~90cm、深さが36~41cmとなり、ほぼ均一な数値を示している。確認面から底面までの深度はほぼ一定で、掘り込みは北から南にかけて傾斜を保っており、C4グリッド地点では段を有しているなど、地形に即した掘り込みが施されたものと推測される。この南北の溝は、調査区南端のB5グリッド地点で方向を東西へ戻し、西方向へ延びるとみられ、方形状に区画された溝であることが認識された。しかし、区画内には住居跡や建物跡などの構築物は検出されていない。溝の断面形状は全体を通して逆台形状となり、覆土は黒色土・黒褐色土を主体としているが、A2グリッド地点の堆積状況では底面で締まりの強い明るめの間層(5~7層)が堆積しており、C3グリッド地点の土層からも底面に沿って類似した層(6・7層)が認められ、この層を挟んで上層はレンズ状に堆積する自然堆積層となっている点で共通している。土層からは流路などの痕跡は確認されていない。他の遺構との重複関係は、B2グリッド地点でSE-01、C4グリッド地点でSK-10、C5グリッド地点でSX-13・14との切り合いが認められている。新旧関係は、SE-01、SK-10より本跡が古く、SX-13・14より新しいことが確認状況や土層などから判断される。

遺物は、須恵器1点と土師器5点が出土し、その内4点を図示した(第10図)。1は南北側の中央部



第10図 SD-01出土遺物実測図

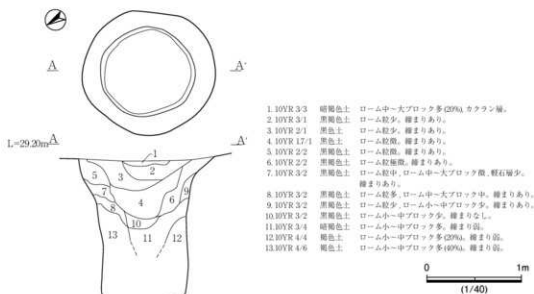


中層から出土した須恵器高台付坏の底部片で、胎土から木葉下窯跡産と考えられる。2は土師器坏の底部片で、溝が方向を変えるコーナー部分の上層から出土している。3は溝東西側の中層で出土した土師器甕の口縁部片で、輪積痕が認められる。4は甕の胴部片で南寄りのC5グリッド地点の底面直上より出土しており、細片ではあるが外面に磨きが認められることから常総型甕と考えられる。(高野)

## 第4節 井戸

今回の調査で検出されている井戸は、SE-01の1基である(第11図)。

SE-01はB2・3グリッドにまたがって確認されている。形状は上端部分がやや広がっているものの、ほぼ円筒形を基調とした素掘りの井戸である。規模は、上端で東西方向135cm、南北方向141cm、下端で東西方向85cm、南北方向88cmとなる。確認面から基底面までの深さは150~153cmを測り、鹿沼軽石層を掘り抜き、粘土層まで掘り込まれている。また、確認面から70cm前後の深さに達したところで湧水が認められた。覆土の上層部は黒色土・黒褐色土主体でレンズ状をした自然堆積層となり、下層部の11層以下はロームブロックが多量に含まれた非常に脆い堆積土で、人為的な埋め戻しがあったものと考えられる。他の遺構との重複関係は、SD-01の北西側で切り合っており、土層より本跡が新しいと判断された。遺物は出土していない。(高野)

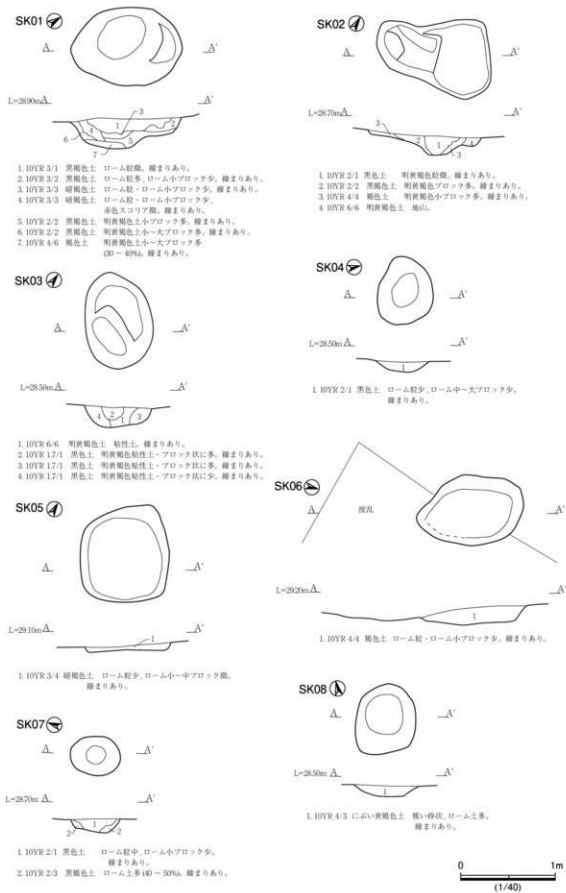


第11図 SE-01実測図

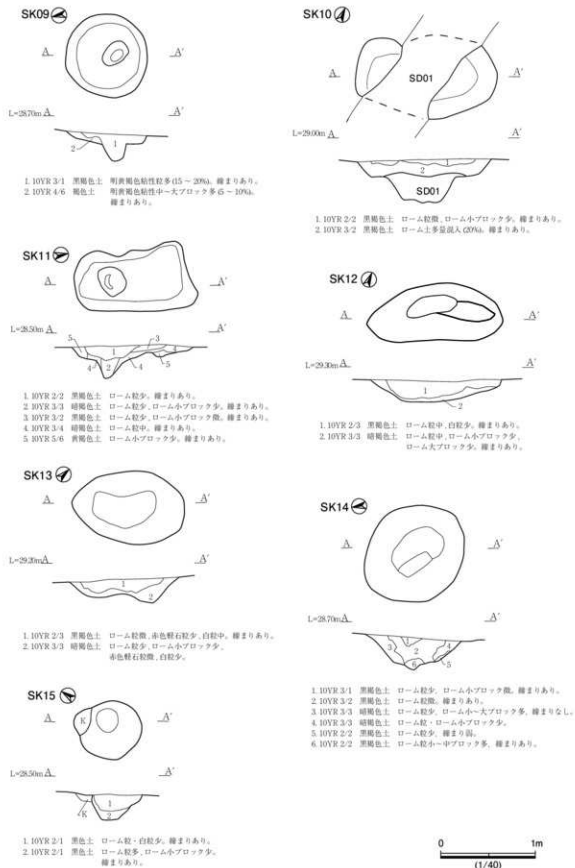
## 第5節 土坑

今回の調査で検出されている土坑は、SK-01~15の15基である(第12・13図)。

各土坑の確認された位置を見ると、調査区の西側に寄ってやや多く検出されているが、特に配置などに極端な状況は認められず、規則性も見出すことはできない。土坑の形状は、SK-02・11のように不整形なものを除いては、平面形状が円形か楕円形となり、断面形状は皿状の浅いものか掘鉢状ま



第12図 土坑実測図(1)



第13図 土坑実測図(2)

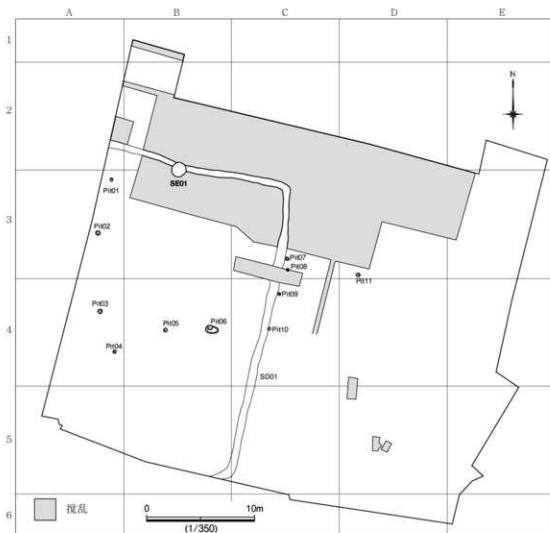
たは椀状のものに区別されるが、それぞれに特徴をうかがうことはできない。規模の大きいものでは、径が140cm前後のものから、小さいものでは径50cm前後のものまで認められ、深さも13~41cmとばらつきが目立つ。覆土は、SK-14のように播鉢状で深いものでは、レンズ状の自然堆積土が観察されるが、浅い皿状のものについては単層となるものが多く、埋没過程は不明瞭である。他の遺構との重複関係を持つものでは、SK-10がSD-01を切り込んでいる以外は確認されていない。

遺物は、いずれの土坑からも出土せず、時期や性格も不明となっている。 (高野)

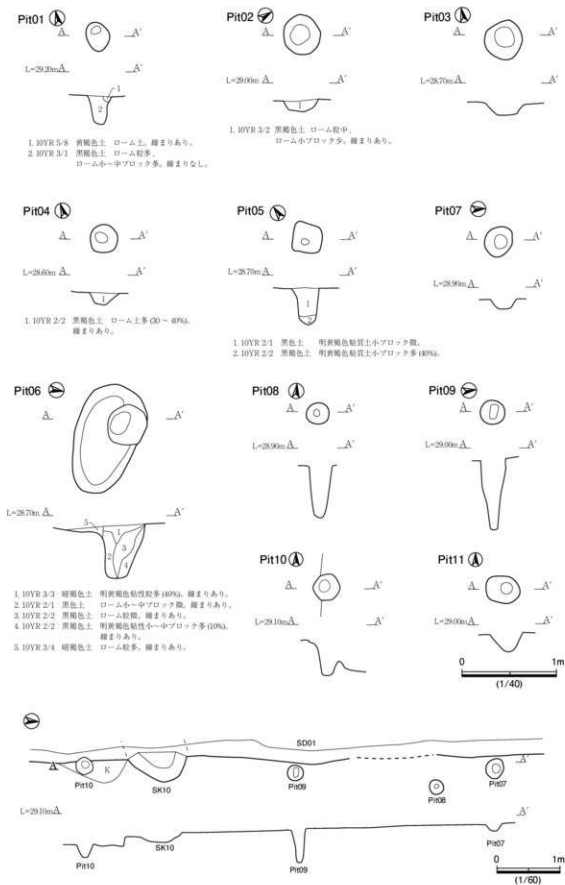
## 第6節 ビット

今回の調査で検出されているビットは、Pit-01~11の11基である(第14・15図)。

各ビットの確認された位置を見ると、調査区の西側壁に寄ったA3・4グリッド、B4グリッド地点で検出されているものと、SD-01東側部分のC3・4グリッドに近接しているものとに配置が分かれる(第



第14図 ビット全体図



第15図 ビット実測図

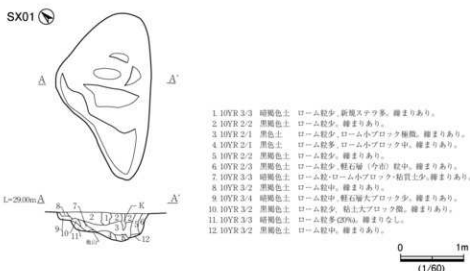
14図)。規則性がうかがえるものとしては、SD-01東側部分に近接するPit-07~10が直線的な配列を見せており、Pit-08はやや外れるものの、Pit-07~09~10はほぼ等間隔の列を形成し、櫛列の可能性がある。各ピットの平面形状は概ね円形であるが、Pit-05のように方形をしたものも認められる。規模は、径26~43cm前後で、さほど差を持たない数値であるが、深さは9~14cmと極端に浅いものから、70cmを測る深いものまでばらつきがある。覆土は、黒褐色土が主体のものがほとんどであるが、方形をしたPit-05は黒色土で粘土ブロックを伴い、新しい様相である。遺物は、いずれのピットからも出土せず、時期や性格も不明となっている。(高野)

## 第7節 風倒木痕状の落ち込み

今回の調査では、風倒木痕状の落ち込みが19基検出されている(第16~21図)。

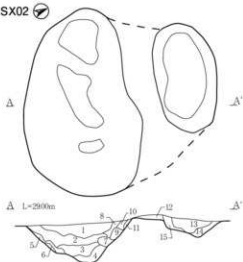
風倒木痕状の落ち込みとしたのはSX-01~19である。平面形状が三日月状または半月状・不整な円形状の落ち込みをしたもので、断面の形状も不整形となり、中央または片側にロームや粘土層が盛り上がった隆起層を伴うものと、黒色土層がロームまたは粘土層の下に来る所謂地層の逆転現象が認められるものを、従来の検出例にならって風倒木痕状と判断した。

それぞれの風倒木痕状の落ち込みが検出されている位置は、A4~E4グリッド線より南側の傾斜地で認められている(第7図)。前述したように形状はふたつのタイプに大別されるが、三日月状のものはSX-01~11があり、調査区中央にあたる標高28.75m上にほぼ沿った地点で主に確認されている。これらには隆起層を挟んで、楕円形状の落ち込みが向かい合わせになっているもの(SX-02・04・07)と、三日月状のものが単独で確認されているもので脇に隆起層を伴うもの(SX-01・03・06・08~10)がある。それぞれの隆起層を含めた規模は、長軸を基準として見た場合、前者が400cm前後とやや大型となり、後者は対向する落ち込みが伴わない分、200~300cm前後と規模が小さくなる。三日月状の断面は、中央部分ですぼまる形状が多く、いずれの土層もレンズ状をした自然堆積層が認められる。一方、



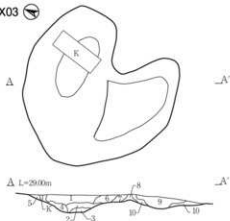
第16図 風倒木痕状の落ち込み実測図(1)

SX02



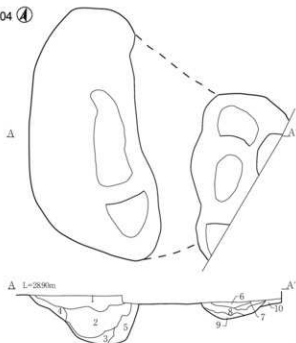
- 1. 1OYR 2/1 黒色土 白粒砂質。締まりあり。
- 2. 1OYR 17/1 黒色土 ローム粒微。白粒砂質。締まりあり。
- 3. 7OYR 2/1 黒色土 ローム粒微。白粒砂質。締まりあり。
- 4. 1OYR 3/3 暗褐色土 明黄褐色土・明黄褐色土小ブロック少。締まりあり。
- 5. 1OYR 4/2 灰黄褐色土 明黄褐色土・明黄褐色土小ブロック微。締まりあり。
- 6. 1OYR 6/6 明黄褐色土 ローム粒少。ローム小ブロック微。締まりあり。
- 7. 1OYR 3/1 暗褐色土 ローム粒少。ローム小ブロック微。締まりあり。
- 8. 1OYR 3/3 暗褐色土 ローム粒少。ローム小ブロック微。締まりあり。
- 9. 1OYR 3/4 暗褐色土 ローム粒中。ローム小ブロック少。締まりあり。
- 10. 1OYR 3/3 暗褐色土 明黄褐色土多(80%)。締まりあり。
- 11. 1OYR 6/6 明黄褐色土 ローム土。
- 12. 1OYR 5/4 にぶい黄褐色土 明黄褐色土多(60%)。締まりあり。
- 13. 1OYR 3/4 暗褐色土 ローム粒多。明黄褐色土・大ブロック少。締まりあり。
- 14. 1OYR 2/3 黒褐色土 ローム粒多。ローム・大ブロック中。締まりあり。
- 15. 1OYR 4/4 褐色土 ローム粒微。明黄褐色土中・大ブロック中。

SX03



- 1. 1OYR 2/3 黒褐色土 ローム粒少。白粒少。締まりあり。
- 2. 1OYR 3/3 暗褐色土 ローム粒多。ローム小ブロック多。締まりあり。
- 3. 1OYR 3/4 暗褐色土 ローム小ブロック多(40%)。締まりあり。
- 4. 1OYR 3/4 暗褐色土 ローム小ブロック多(20%)。3層に散在。締まりあり。
- 5. 1OYR 3/4 暗褐色土 ローム小ブロック多(10%)。3層に散在。締まりあり。
- 6. 1OYR 3/2 暗褐色土 ローム粒微。ローム小ブロック少。締まりあり。
- 7. 1OYR 5/6 黄褐色土 ローム土主体。若干でらひ化する。締まりあり。
- 8. 1OYR 4/6 褐色土 ローム土主体。若干でらひ化する。締まりあり。
- 9. 1OYR 3/4 暗褐色土 ローム小ブロック多。白粒少。締まりあり。
- 10. 1OYR 3/4 暗褐色土 ローム小ブロック中。ローム土多(10~20%)。締まりあり。

SX04

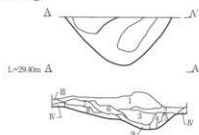


- 1. 1OYR 2/2 黒褐色土 ローム粒少。白粒微。赤色スコリア散在。締まりあり。
- 2. 1OYR 2/1 黒色土 ローム粒少。ローム小ブロック少。締まりあり。
- 3. 1OYR 3/2 黒褐色土 ローム小・中ブロック多。締まりあり。
- 4. 1OYR 3/3 暗褐色土 ローム小・中ブロック多。締まりあり。
- 5. 1OYR 4/4 褐色土 ローム小・中ブロック少。粒石粒微。締まりあり。
- 6. 1OYR 4/6 褐色土 ローム粒微。ローム小ブロック中。締まりあり。
- 7. 1OYR 2/3 黒褐色土 ローム粒少。ローム小ブロック微。締まりあり。
- 8. 1OYR 3/3 暗褐色土 ローム粒少。ローム小ブロック多(15~20%)。締まりあり。
- 9. 1OYR 4/6 褐色土 砂状軽い。黒色土ブロック少。締まりあり。
- 10. 1OYR 4/4 褐色土 砂状軽い。黒色土ブロック少。締まりあり。



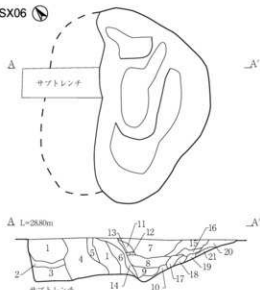
第17図 風倒木痕状の落ち込み実測図(2)

SX05



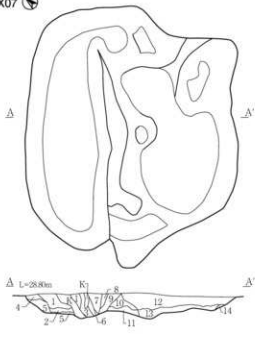
1. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒微、締まりあり。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中、締まりあり。
3. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒微、ローム小アブロック微、締まりあり。
4. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック多、締まりあり。
5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック多、締まりあり。
6. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック多、締まりあり。
7. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック多、締まりあり。
8. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック多、ローム最大アブロック(φ15~20mm)少、締まりあり。

SX06



1. 10YR 6/8 明黄褐色土 ローム上、粒状粗く粘性あり。締まりあり。
2. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 粘質土、粘性強。締まりあり。
3. 10YR 6/4 に近い黄褐色土 粘質土、粘性強。締まりあり。
4. 10YR 6/4 に近い黄褐色土 粘質土、粘性強。締まりあり。
5. 10YR 6/6 明黄褐色土 粘質土、粘性強。締まりあり。
6. 10YR 5/6 黄褐色土 粒状粗く、軽石粒多。締まりあり。
7. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒微、締まりあり。
8. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒微、ローム小アブロック・軽石粒微、締まりあり。
9. 10YR 12/1 黒色土 ローム粒・ローム小アブロック多、軽石粒微、締まりあり。
10. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム小アブロック多。締まりあり。
11. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック微、軽石粒中、締まりあり。
12. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒中、締まりあり。
13. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒少、軽石粒少。締まりあり。
14. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック中、軽石粒多。締まりあり。
15. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム粒少、粘土粒少、軽石粒少。締まりあり。
16. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック少、軽石粒微、締まりあり。
17. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒少、ローム小アブロック多、締まりあり。
18. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム上。締まりあり。
19. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒多、ローム小アブロック中、締まりあり。
20. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 ローム粒多、ローム小アブロック中、締まりあり。
21. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム上、黒褐色土中。締まりあり。

SX07

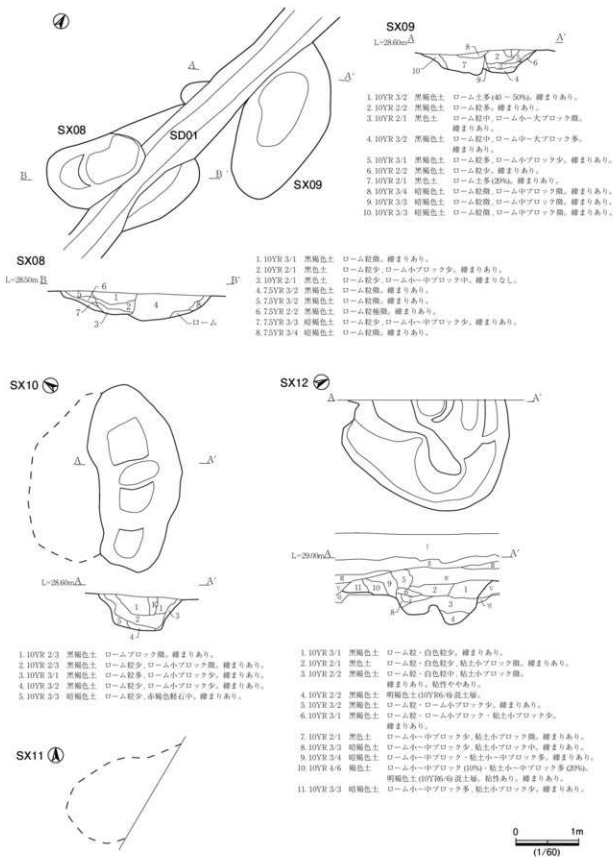


1. 10YR 2/3 黒褐色土 ローム粒微、締まりあり。
2. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒微、ローム小アブロック微、締まりあり。
3. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒中、ローム小アブロック少、締まりあり。
4. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒微、締まりあり。
5. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒多、石粒少、ヌコリア微、締まりあり。
6. 7.5YR 3/3 暗褐色土 ローム粒少、炭分多含む。締まりあり。
7. 7.5YR 3/4 暗褐色土 ローム粒少、白砂中、ヌコリア微、締まりあり。
8. 7.5YR 4/4 褐色土 ローム粒多、白砂少。締まりあり。
9. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム上。締まりあり。
10. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 粘質土、締まりあり。
11. 10YR 5/3 に近い黄褐色土 粘質土、粘性強。締まりあり。
12. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム粒多、ローム小アブロック多、ローム最大アブロック(φ20~30mm)中、粘土小アブロック多。締まりあり。
13. 10YR 4/6 褐色土 ローム上多、黒色土多、粘土小アブロック多。締まりあり。
14. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム上。締まりあり。

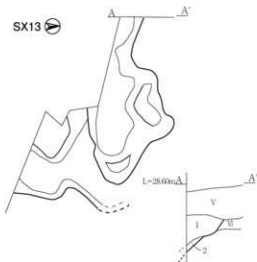
0 1m  
(1/60)

第18図 風倒木痕状の落ち込み実測図(3)

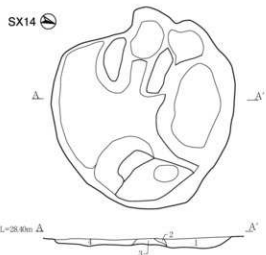




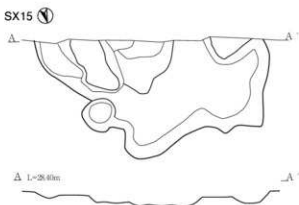
第19図 風倒木痕状の落ち込み実測図(4)



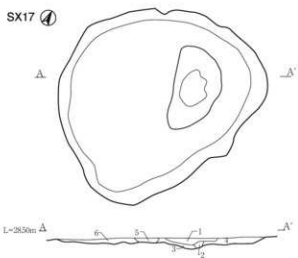
1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒少、ローム小ブロック散、種まちなし。  
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ローム小ブロック少、  
粘土小ブロック少、種まらあり、粘性ややあり、



1. 10YR 17/1 黒色土 明黄褐色粘質土粒・ブロック少、種まらあり。  
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム小・中ブロック多、種まらあり。  
3. 10YR 6/6 明黄褐色土 粘性土、種まらあり。  
4. 10YR 2/2 黒褐色土 明黄褐色粘質土中〜大ブロック多(30〜40%)、  
種まらあり。



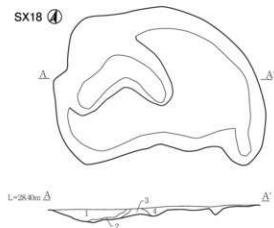
1. 10YR 17/1 黒色土 明黄褐色粘質土ブロック少、種まらなし。



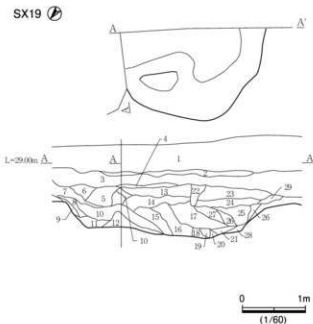
1. 10YR 2/1 黒色土 ローム粒中、ローム小ブロック少、種まらあり。  
2. 10YR 17/1 黒色土 ローム粒中、ローム小ブロック少、種まらなし。  
3. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒少、ローム小〜大ブロック多、種まらあり。  
4. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒少、ローム小〜中ブロック多、種まらあり。  
5. 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒少、ローム小〜中ブロック多、種まらあり。  
6. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒少、ローム小〜中ブロック多、種まらあり。



第20図 風倒木痕状の落ち込み実測図(5)



- 1. 10YR 2/1 栗色土 ローム較少、ローム小プロック散、雜りあり。
- 2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム散、ローム小プロック少、雜りあり。
- 3. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム主体、雜りあり。
- 4. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム較多、ローム小プロック中、雜りあり。



- 1. 10YR 4/2 灰黄褐色土 底土層。
- 2. 10YR 3/2 黒褐色土 赤田土と思われ。雜りあり。
- 3. 10YR 2/2 黒褐色土 石灰土。雜りあり。
- 4. 10YR 2/2 黒褐色土 石灰土とロームの混土層。雜りあり。
- 5. 10YR 4/6 褐色土 ローム土主体、栗色土中一大プロック少。雜りあり。
- 6. 10YR 3/3 暗褐色土 5層よりローム上まばらになる。雜りあり。
- 7. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム較多、ローム小プロック中。雜りあり。
- 8. 10YR 2/1 栗色土 ローム散中、ローム小プロック少。雜りあり。
- 9. 2.5YR 3/4 暗褐色土 赤褐色粘土と栗色プロックの混土層。雜りあり。
- 10. 10YR 1/1 栗色土 ローム較散、ローム中一大プロック少。雜りあり。
- 11. 10YR 5/6 黄褐色土 栗色土小一大プロック多。雜りあり。
- 12. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム土。雜りあり。
- 13. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム土。雜りあり。
- 14. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム土。粘状ややねい、粘性ややあり。雜りあり。
- 15. 10YR 6/6 明黄褐色土 ローム土。粘状ややねい、粘性ややあり。雜りあり。
- 16. 10YR 6/6 明黄褐色土 ローム土。粘性強い。雜りあり。
- 17. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム土。粘性強い、粘性ややあり。雜りあり。
- 18. 10YR 5/8 黄褐色土 栗色土中、粘性あり。雜りあり。
- 19. 10YR 1/1 栗色土 ローム土と栗色土の混土層。雜りあり。
- 20. 10YR 1/1 栗色土 ローム小プロック多。雜りあり。
- 21. 10YR 1/1 栗色土 ローム較少、ローム小プロック散。雜りなし。
- 22. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム較少、ローム小プロック散。雜りあり。
- 23. 10YR 2/1 栗色土 ローム較散、ローム小プロック散。雜りあり。
- 24. 10YR 2/1 栗色土 ローム較散、ローム小プロック散。雜りあり。
- 25. 10YR 1/1 栗色土 ローム較散、ローム小プロック散。雜りあり。
- 26. 10YR 2/1 栗色土 ローム小プロック中。雜りあり。
- 27. 10YR 2/2 暗褐色土 ローム土主体、栗色土プロック多。雜りあり。
- 28. 10YR 1/1 栗色土 ローム小プロック少。雜りなし。
- 29. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム土、栗色較散。雜りあり。

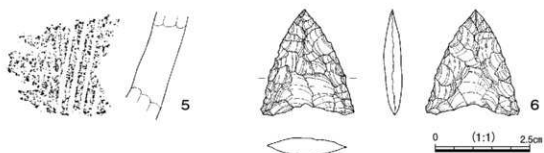
第21図 風倒木痕状の落ち込み実測図(6)

三日月状・不整形形状のものにはSX-12~19があり、標高28.5m以下の調査区南側に寄って確認されている。それぞれの平面規模は長軸で265~374cmと、三日月状のものとは比べても大差はない。堆積土は浅いものが多く不明瞭であるが、東側壁にかかって検出されたSX-18の土層で地層の逆転現象が認められており、それらと同じ形状の下部の層が残存したものではないかと考えられる。重複関係を持つものにはSX-08・09があり、いずれもSD-01と切り合っていて、土層から風倒木痕状の落ち込みが古いものと判断される。遺物は、いずれの落ち込みからも出土していない。(高野)

### 第8節 遺構外出土遺物

遺構外の遺物として、縄文時代の土器と石器、奈良・平安時代のものと思われる土師器甕胴部の細

片が各1点採集されており、その内2点を図示した(第22図)。5はD4グリッド内の確認面より出土した縄文土器深鉢と思われる胴部の細片で、外面に櫛歯状工具による条線が施文され、胎土から中期の所産と考えられる。6はD5グリッド内で出土したチャート製石鏝の完形品である。挟入の浅い凹基無茎鏝で、両側縁が若干丸みを帯びているものである。(高野)



第22図 遺構外出土遺物実測図

第3表 出土遺物観察表

図版	出土地点	器種	法量 (cm)	部位 遺存率	焼成 状態	色調	胎土	器形・技法の特徴	備考
1	SD-01	須恵器 高台付 灰環	口径 — 器高 (27) 底径 (9.1)	底部片	良好 ・ 堅緻	7.5Y5/1灰色	石英、長石、 チャート、白粒。	回転轆轤水挽成形。高台部は貼付後ナデ調整。	小室下層所産
2	SD-01	土師器 灰環	口径 — 器高 (1.4) 底径 —	底部片	良好	外面7.5YR7/6 褐色。 内面7.5YR6/6 褐色	砂礫多、ガラス質 粒、赤色スコリア 散在。	底部は丸みを持って立ち上がる。外面はヘラ削り調整。	
3	SD-01	土師器 灰環	口径 (22.0) 器高 (7.0) 底径 —	口縁部 ・ 体部	普通	内外面7.5YR5/4 にふい褐色	砂礫多、ガラス質 粒、赤色スコリア。 チャート。	粘土輪積成形。口縁部はくの字に屈曲して立ち上がり、輪積痕が明瞭に残る。口縁部は揃み上げ調整。内面はヘラナデ調整。	常総型要
4	SD-01	土師器 灰環	口径 — 器高 (3.5) 底径 —	体部片	普通	外面7.5YR4/6 褐色。 内面7.5YR4/2灰 褐色	砂礫多、ガラス質 粒、赤色スコリア、 白雲母。	外面は磨き調整。	常総型要
5	D4 表採	縄文土器 深鉢	口径 — 器高 (2.8) 底径 —	胴部片	普通	内外面5YR4/8 にふい褐色	砂礫多、ガラス質 粒、角閃石、 白雲母。	棒状工具と櫛歯状工具による浅い条線が施される。	中期*

## 石器

図版	出土地点	器種	材質	部位 遺存率	計測値				備考
6	D5 表採	石器 石鏝	チャート	完形	長さ: 28cm	厚さ: 0.45cm	幅: 25cm	重さ: 29g	

第4表 出土遺物一覧表

遺構名	出土遺物												不明
	種別	器種	産地	鏡片	器体	小片	鏡片	器体	小片	鏡片	器体	小片	
SD-01	土師器	灰環			0	0	0	1	1	0	0	0	0
		常総要			0	0	0	4	4	0	0	0	0
表採 (C4)	須恵器	有台灰環			0	0	0	1	1	0	0	0	0
		常総要			0	0	0	1	1	0	0	0	0
表採 (D4)	縄文土器	深鉢	中期	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
表採 (D5)	石器	石鏝	チャート	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
総計				1	1	2	0	7	7	0	0	0	0

## 第IV章 総括

### 第1節 第5地点における土地利用の変遷

赤塚遺跡とその周辺では、第III章で触れられている通り、桜川流域という立地条件に恵まれたためか、先土器時代から中世に至るまで連続と生活の痕跡が残る場所となっており、本地点においても周辺遺跡から受けた何らかの影響が捉えられる。

今回行われた赤塚遺跡第5地点の調査では、人為的な遺構と自然的な痕跡の双方が検出されている。人為的な遺構となる主なものは、溝（SD-01）、井戸（SE-01）とピットである。

溝は、調査区内では全容が把握されないまでも、方形状に圍繞されることが捉えられる。溝の規模は小さく、水成作用の痕跡も認められないため、区画溝であることは明らかであるが、区画範囲も狭く、区画内にはわずかにピットが検出されているものの、建物などの構築物に当てはまるものとは考えられず、それ以外でも明瞭な性格が示唆される遺構の存在は認められないことから、何を目的として区画されたのか不明瞭である。時期は、覆土中から奈良・平安時代の遺物を伴っており、他の時期のものが全く出土していないことから、該期に構築、利用されたものと判断するのが妥当と考える。

井戸は、円筒形をした素掘りのもので、深さが2mに達しない浅いものである。桜川に近接しているため、さほど深度を得なくても湧水が確保されたものと考えられる。利用目的には、飲用などの生活用水を確保した井戸と農業用水などの灌漑用に用いられた井戸があるが、本地点の場合は周辺遺構に居住域の痕跡が認められないことや、井戸内に濾過施設が検出されていないことから、生活用水とするには根拠が乏しく、農業用水を確保するための「野井戸」であった可能性が高い。井戸の構築時期は、奈良・平安時代とした溝を切り込んで構築されていることから、それ以降のものとは判断されるものの、遺物がまったく出土していないため、使用及び廃絶された時期については不明である。あえて形態のみで年代を推測すると、本遺跡に隣接する環遺跡第3地点では、形状が漏斗状をした井戸2基と、概ねそれに近い形状と思われるものが1基検出されており（小川・関口ほか 2007）、いずれも15世紀後半から16世紀にかけての遺物を伴っているが、本地点で検出されたものとは形態的な差異が認められる。神奈川県下の遺跡から検出された井戸の集成では、漏斗状の形態は中世以前には存在せず、円筒状で上部に張り出しなどの変形部分を持たない素掘りの井戸が近世井戸址を代表する形態であることが指摘されている。17世紀代までは主体となっていた漏斗状のものが、18世紀前半にかけて円筒状のものへの転換が認められ、18世紀後半から19世紀前半にかけて主流形態として盛行するとされている（柳川・榊淵・市川 1998）。この成果を援用するならば、地域的な相違も考慮にいれなければならないが、本地点で検出されたSE-01も、概ねこの様相に該当するものと思われる。

ピットは11基検出されているが、前述したように溝SD-01の区画内には建物跡を連想させるピットとはならず、構築の意図も把握されない。SD-01東外側に近接するPit-07～10のピット群が直線的な配列を見せているため、櫛列の可能性が示唆されるのみである。

自然的な痕跡としては、風倒木痕跡の落ち込みが多数検出されている。一般的には、中央に盛り上がったローム層などを土壌化した黒色土が取り巻いているもので、樹木の横転により、この中心のロー

ム層の下位に黒色土が入り込んでいる、地層の逆転現象が認められる形成過程を経たものが「風倒木痕」として解釈されている。しかし、本地点で検出されているSX-01～19では、ほぼ同様の形成過程が捉えられてはいるものの、当てはまらない要素があるため「風倒木痕状」とした。これらの解釈とは別に「土壌変形」と称し、地震の液状化現象に伴うものとして捉える向きもある（松田・井上 2005）。風倒木痕状の落ち込みは、SX-08・09と奈良・平安時代の所産と考えられる溝SD-01との切り合い関係から、溝の時期より古いと判断されているため、他の風倒木痕状の落ち込みも同様に、奈良・平安時代以前に形成されたものと推測される。

なお、土坑としてとりあげたSK-01～15は、楕円形状で断面形状も不安定なものも多く、遺物も全く出土していないことから、人為的な遺構としては捉えられなかった。

以上のことから、本地点における土地利用の変遷を推測すると、生活の拠点は本地点の北方にあって、桜川に近い本地点は、奈良・平安時代以前は集落から距離を置いた雑木の繁殖する地域であったと考えられる。奈良・平安時代になって、集落の拡張とともに、おそらくは耕作などを目的とする区画がなされ、近世以降に灌漑用の井戸が構築されるなど、主として農地としての利用が継続されたものと理解される。

(高野)

## 【引用・参考文献】

- |             |   |
|-------------|---|
| 石井 毅        | 1981 「松原遺跡」『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』（茨城県教育財団文化財調査報告書第X I集）財団法人茨城県教育財団                     |
| 伊東重敏        | 1974a 「1 解説 2 主要遺跡 3 赤塚古墳群」『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』   |
|             | 1974b 「向原遺跡発掘調査報告書 SITE No.4273・4261・4231」水戸市教育委員会                                      |
| 井上義安        | 1985 「高天原 一水戸市河和田町地内団地造成工事に伴う古墳および住居址・土壌の発掘調査記録一」水戸市高天原古墳発掘調査会                          |
| 井上義安・鈴木浩子   | 1996 「水戸市環遺跡 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」水戸市教育委員会   |
| 小川将之・関口慶久・  | 2007 「環遺跡（第3地点）一ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一」水戸市教育委員会・株式会社グリーン・ハウジング・株式会社地域文化財コンサルタント |
| 川口武彦・新垣清貴   |   |
| 鐘方正樹        | 2003 「井戸の考古学」ものが語る歴史シリーズ⑧ 同成社   |
| 鴨志田篤二       | 1999 「狩猟・漁労・採集の生活」『概説水戸市史』水戸市役所   |
| 川口武彦        | 2009 「水戸市旧水戸市域の古墳群」『シンポジウム 常陸の古墳群』六一書房  |
| 川口武彦・色川順子・  | 2009 「平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書」第22集 水戸市教育委員会   |
| 関口慶久・新垣清貴   |   |
| 川口武彦・色川順子・  | 2010 「平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書」第35集 水戸市教育委員会   |
| 関口慶久・新垣清貴・  |   |
| 渥美賢吾・木本孝周   |   |
| 関口慶久・佐々木藤雄・ | 2009 「若林遺跡（第1地点）一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一」水戸市教育委員会  |
| 林 邦雄        |   |

- 外山泰久 1983 「常陸赤塚—国道50号バイパス道路建設に伴う発掘調査—」 国道50号水戸バイパス埋蔵文化財発掘調査会
- 橋本勝雄 1995 「茨城の旧石器時代」『茨城県考古学協会誌』第7号 茨城県考古学協会
- 松田順一郎・井上智博 2005 「風例木痕とは似て非なる古地震痕跡—大阪府讚良郡桑里遺跡の例」日本文化財科学会第22回大会（7月9・10・11日 北海道大学）、ポスターセッション資料、(財)大阪府文化財センター 井上智博氏との共同研究。
- 三輪孝幸・新垣清貴・川口武彦・関口慶久 2007 「環遺跡（第4地点）—ブランタンコリヌスⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」第9集 水戸市教育委員会
- 柳川清彦・樹沼規彰・市川正史 1998 「神奈川県下における近世井戸址の研究（1）」『かながわの考古学・研究紀要3』神奈川県立埋蔵文化財センター・財団法人かながわ考古学財団 近世研究プロジェクトチーム

## 写真図版







調査区全景（北東から）



調査区全景西側（北東から）



調査区全景（東から）



調査区完掘南東側（西から）



調査区完掘北西側（南西から）



調査区完掘南側（西から）



SD-01 全景（南東から）



SD-01 北側全景（北西から）



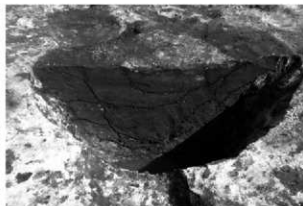
SD-01 遺物出土状況（北から）



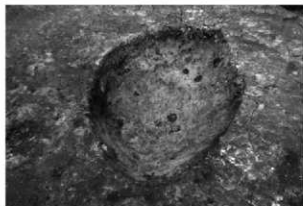
SD-01 土層断面（東から）



SE-01 全景 (北から)



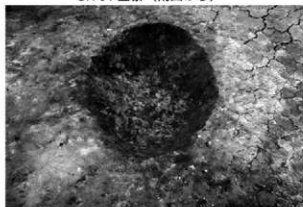
SE-01 土層断面 (北西から)



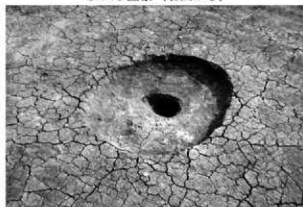
SK-01 全景 (南西から)



SK-10 全景 (北西から)



SK-13 全景 (南西から)



SK-09 全景 (北から)



SK-14 全景 (西から)



SK-14 土層断面 (南西から)



SX-02 全景 (東から)



SX-04 全景 (北から)



SX-06 全景 (北から)



SX-06 土層断面 (南東から)



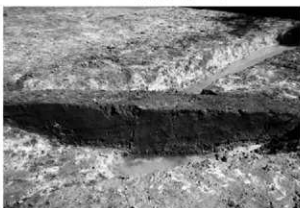
SX-07 全景 (南西から)



SX-07 土層断面 (南から)



SX-08・09 全景 (南から)



SD-01・SX-08 土層断面 (北西から)



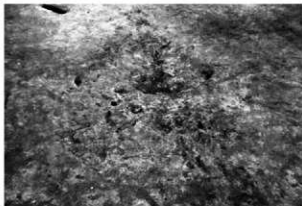
SX-10 全景 (南西から)



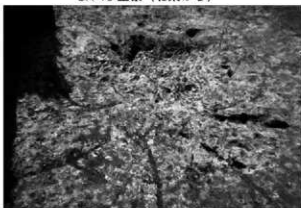
SX-12 全景 (北東から)



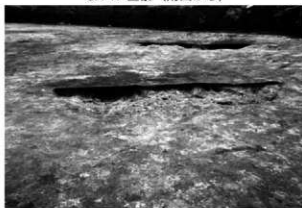
SX-15 全景 (北東から)



SX-17 全景 (南西から)



SX-18 全景 (南東から)



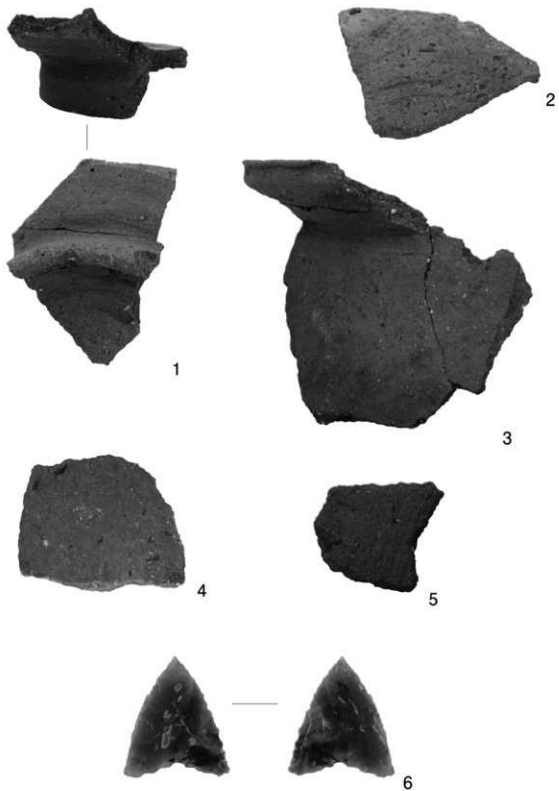
SX-17・18 土層断面 (北西から)



SX-19 全景 (南西から)



SX-19 土層断面 (南西から)



出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	あかつかいせきだいごちてん							
書名	赤塚遺跡（第5地点）							
副書名	河和田住宅建替え事業（第5期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第42集							
編著者名	高野浩之・米川暢敬							
編集機関	関東地域文化財研究所／〒270-1327 千葉県印西市大森 2596-9 電話：0476-42-7820							
発行機関	水戸市教育委員会／〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 電話：029-224-1111							
発行年月日	2011（平成23）年1月28日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
あかつかいせき 赤塚遺跡 だいごちてん （第5地点）	いばらきけんみとし 茨城県水戸市 かわだ ちようめ 河和田3丁目 2536-1 ばんち ほか 番地外	201	042	36° 22' 17"	140° 24' 26"	2010.07.26 ～ 2010.08.30	1,380㎡	市営住宅建替え
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
赤塚遺跡 （第5地点）	集落跡	縄文時代	—	土器・石器（石鏃）		今回の調査では、奈良・平安時代の区画溝1条と近世のものと考えられる井戸1基を検出した。調査区内には風倒木痕跡の落ち込みが多数検出されている。		
	集落跡	奈良・平安時代	溝	1条	土師器（坏・甕） 須恵器（高台付坏）			
	集落跡	近世	井戸	1基	—			
	—	時期不明	土坑 ピット	15基 11基	—			



## 水戸市埋蔵文化財調査報告書一覧

No.	書名	副書名	発行年月
第1集	台波里庵寺跡	一 範囲確認調査報告書—	2005年3月発行
第2集	台波里庵寺跡	一 市道常警17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2005年4月発行
第3集	大鋸町遺跡	— グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2005年8月発行
第4集	台波里庵寺跡	— 市道常警17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2006年3月発行
第5集	台波里遺跡	— 集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第6集	吉田古墳Ⅰ	— 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書—	2006年3月発行
第7集	大鋸町遺跡(第3地点)	— 市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2006年3月発行
第8集	環遺跡(第3地点)	— ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第9集	環遺跡(第4地点)	— ブランタンコロシアムⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第10集	吉田古墳Ⅱ	— 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書—	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書		2007年3月発行
第12集	アラヤ遺跡(第2地点)	— 市道常警10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第13集	米沢町遺跡(第5地点)	— 住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2007年3月発行
第14集	大串遺跡(第7地点)	— 介護老人福祉施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第15集	台波里遺跡(第39次)	— 公共下水道管理施設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年3月発行
第16集	波里町遺跡(第5地点)	— 市道常警31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第17集	波里町遺跡(第6地点)	— 市道常警34.275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年6月発行
第18集	薄内遺跡(第1地点)	— 移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年8月発行
第19集	堀遺跡(第9地点)	— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年9月発行
第20集	元石川大谷原遺跡	— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2008年12月発行
第21集	台波里Ⅰ	— 平成18年度長者山区地区範囲確認調査概報—	2009年3月発行
第22集	平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書		2009年3月発行
第23集	吉田古墳Ⅲ	— 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書—	2009年3月発行
第24集	町方遺跡(第1地点)	— 共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第25集	東組遺跡(第1地点)	— 物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第26集	荷坂坂遺跡(第1地点)	— コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第27集	大鋸町遺跡(第8地点)	— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第28集	雁沢遺跡(第1地点)	— 工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年3月発行
第29集	波里町遺跡(第7地点)	— 市道常警23、31、307号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年6月発行
第30集	台波里Ⅱ	— 市道常警283号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台波里第51次)—	2009年6月発行
第31集	若林遺跡(第1地点)	— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年8月発行
第32集	堀遺跡(第16地点)	— 市道波里48号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—	2009年10月発行
第33集	堀遺跡(第18地点)	— 市道波里31、41号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年11月発行
第34集	堀遺跡(第17地点)	— 市道波里35号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009年12月発行
第35集	平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書		2010年3月発行
第36集	笠原水道	— 第6次・10次・11次発掘調査報告書—	2010年3月発行
第37集	台波里Ⅲ	— 平成19～21年度長者山区地区範囲確認調査概報—	2011年1月発行
第38集	台波里Ⅳ	— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台波里第64次)—	2011年1月発行
第39集	堀遺跡(第3地点第2次調査)	— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2011年1月発行
第40集	台波里Ⅴ	— 市道常警123号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台波里第60次)—	2011年1月発行
第41集	堀遺跡(第16地点)	— 市道波里48号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)—	2011年1月発行
第42集	赤塚遺跡(第5地点)	— 河和田住宅建替え事業(第5期)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2011年1月発行
——	水戸城跡	— 一三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書—	2006年9月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告第42集

## 赤塚遺跡（第5地点）

河和田住宅建替え事業（第5期）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 平成23年1月28日

発行 平成23年1月28日

編集 株式会社地域文化財研究所

〒270-1327 千葉県印西市大森2596-9

TEL：0476-42-7820 FAX：0476-42-3804

発行 水戸市教育委員会

〒310-8610 茨城県水戸市中央1丁目4番1号

TEL：029-224-1111（代）

印刷 株式会社ライフ

〒286-0134 成田市東和田595

TEL：0476-24-1564